



TOKYO-Xアソシエーションが総会、今年度は9千頭販売目標

東京生れの高級ブランド豚肉「TOKYO-X」の販売事業者で組織する「TOKYO-X-Association」(会長 植村光一郎(株)ミートコンパニオン常務執行役)の平成25年度総会が、9日午後3時から東京・八王子の京王プラザホテルで開催され提出全議案を承認した。任期満了となった役員改選では植村会長をはじめ糸瀬好弘副会長(株)三越伊勢丹フードサービス取締役製造

部長)、中村敏章、佐藤浩一、小林和人、北村陽三、林実の理事及び監事の全員を再任した。植村会長(写真)は「創立14年を迎えることが出来たのも消費者、生産者、認定店舗の皆さま方の支援の賜で、現在147社、337店舗と販売店舗数が昨年より60店舗増加した。昨年度より第4次ブランド化として①消費者の購買行動が生産工程に大きく影響する②良質の食品を見極める選食能力を高める③地域密着の地域活性化に力を注ぐなどに取り組んでいる。このため東京の名産(東京X)として認定店の協力を得て東京スカイツリーエリアでの飲食や東京マラソンで東京Xランチャパックスの販売、B級グルメの東京Xの肉うどん等に積極的協力し、学校の社会科授業における食育活動、大学等において東京Xのフードチェンモデルの説明などを通じて情報発信してきた」とあいさつ。来賓の都農林水産振興財団の高橋慎一事業課長は「東京Xは皆様の力で25年度は9千頭目標で、雌豚70頭弱、雄豚25頭弱の原原種豚を維持して生産を支えている。今後も長期にわたりX系統の維持とブランドを磨いて、日本のブランドをリードするのではなく世界の最高峰に君臨したい」と生産・技術面からの支援を約束した。

総会で報告された東京Xの生産農家は27戸で24年度出荷は8900頭で、25年度目標は9千頭で、26年度が創立15周年を迎えるため、記念の小冊子の作成や消費者及び生産者を招待しての250人規模の記念セレモニーの開催も計画している。また昨年度から開始した東京Xを使った食肉調理品の基準・規格についても、食品調理協会の分類規約を導入して明確化し、合わせて百貨店や量販スーパーにおけるギフト販売(認定店の工場及び認定店で処理加工された生肉、挽肉)についても規格基準を制定した。

「鶏ひなふ化羽数・3月」ブロイラー用え付け羽数は2.5%減少

(社)日本種鶏孵化協会がこのほど発表した鶏ひなふ化羽数データ収集調査によると、平成25年3月の全国ブロイラー用ひなの出荷・え付け羽数は5490万7千羽で、前年同月の5632万8千羽に比べて2.5%減少した。また全国の採卵用めすの出荷・え付け羽数は752万羽で、前年同月の806万5千羽に比べて6.8%減少となった。

種・種 鶏ひなふ化羽数

|          | 出荷羽数   | 前年比% | ふ化羽数 | 前年比%  |
|----------|--------|------|------|-------|
| 採卵用めす    | 7,520  | -6.8 | -    | -     |
| ブロイラー用   | 54,907 | -2.5 | -    | -     |
| 種鶏採卵用    | 115    | 29.2 | 275  | 28.5  |
| 種鶏ブロイラー用 | 481    | -6.2 | 643  | -44.8 |